

私は歩くのが早い。ゆっくり歩くというのが苦手である。家人と歩いていても、さっさと先に行ってしまうことが多い。当然、家人は不満である。これが30年以上も続いている。この解決策は簡単である。手をつないで歩けばいいのである。とはいっても、簡単なことではない。恥ずかしい。

教諭として学校に勤務しているときも歩くのは早かったように思う。忙しいからなのだろうが、同じように忙しくても、せかせかせずに歩く先生もいる。急いでしまう自分が嫌だった。いつもゆっくりと余裕をもって歩きたかった。だが、なかなか改善しなかった。忙しそうに早足で歩いている先生になど生徒は声をかけようとは思わないだろう。相談しようとは思わない。

教頭になった。ようやく本気で考えた。「所作」という言葉がある。立ち振る舞い、身のこなし、しぐさのことである。せわしく動き回っている教頭など、何の魅力もない。少しは、ゆっくり落ち着いて歩こうと決めた。

ところが、教諭のとき以上に忙しかった。自ずと歩くのが早くなってしまふ。そんな自分を毎日反省した。危険なのは、入学式や卒業式である。開式のことばと閉式のことばが教頭の出番である。ステージに上がる。会場中の視線が歩いて移動する教頭に集中する。このような状況で、せかせか歩いていたのでは場にそぐわない。意識して、ゆっくりと歩くようにした。一つ一つの動作もゆっくりと心がけた。

学校ではないところに勤務することになった。自然と歩くのが普通になってきた。それだけ学校は忙しかったということか。県内のいろいろな学校におじゃまする機会があった。ここでも、せかせか歩いていたのではおかしいので、ゆっくりと落ち着いて歩くようにした。すると、だんだんと身についてきたような気がしてきた。

校長になった。また考えた。今まで以上に立ち振る舞いに気をつけなければと心に誓った。だが、つつい以前の自分が出てしまふ。そのたびに反省している。例えば、金曜日の朝の打合せでは、「おはようございます」をゆっくり言うことにしている。なおかつ、頭を下げながら言わないようにしている。そして、話すのもゆっくり間をおきながらと思っはいるが、これがなかなかむずかしい。

朝、玄関や昇降口を入り、下足入れから上履きを出す。ここまでは、生徒も先生も同じである。この後に差が出る。生徒の様子を見ていると、上履きを丁寧に床に置いてから履く生徒がいる。その一方で、上履きを手から乱暴に放す生徒がいる。床に落ちる音がする。先生はというと、やはりどちらのケースもある。

所作の基本は、音を立てないことである。音を出さないように動けば、ゆっくりと丁寧になる。いつの頃からは忘れたが、上履きをきちんと床に置いてから履くようにしている。一日のスタートである。けっこう大事なことのよう思える。

入学式や卒業式では、教頭時代よりもゆっくりとメリハリをつけて動くように心がけている。うまくできているのかはわからない。きっと普段の立ち振る舞いやしぐさが出てしまうのだろうと思う。日々の鍛錬が欠かせない。

所作は私の課題の一つである。これからも意識して、日々精進していきたい。